

埼玉大学教養学部同窓会だより

# けやき会

第15号

あいさつ

けやき会会長 棚木誠  
(70年卒中国文化)

けやき会は1991年の創立以来、4半世紀の歴史を刻んできました。この間、各分野で活躍する約9000の同窓生のネットワークを強化するため、年1回の同窓会総会の開催や会報発行、ホームページでの様々な情報発信、各専攻や各期などのミニ同窓会への支援などの活動を進めてきました。卒業生と在学生の結び



けやき会寄付講座で: 講義する会長

つきを強めるために、教養学部とも協力して、教育支援金の寄贈などを通じた研究・就職支援にも積極的に取り組んできました。国立大学予算の経年的な削減、人文・社会学部見直し論など、大学と学部への逆風が強まる中で、よりよい研究・教育環境を守る上で、同窓会が果たす役割は一層大きくなっています。

2013年度からは教養学部のご協力を得て、卒業生と在学生を結ぶ学びの場として、教養学部の講義の中に、けやき会の寄附講座「経済事情——グローバル時代のキャリア形成」(2単位取得)の授業を開講しています。寄付講座は3年目を迎え、教養学部生だけでなく、経済・教育学部生も加え受講生が100名を超えるまでになっています。授業では、国内外で幅広く活躍する同窓生の方々に、グローバル化最前線で蓄積

した貴重な経験と見識を在学生たちに還元していただいています。

2014年度には、待望の教養学部同窓会(けやき会)の「けやき会名簿(第3版)」を発行いたしました。今後ともこの名簿が、新会員の方々を含めた同窓生の皆様のネットワークの礎になると共に、新たな感動や懐旧の情などを提供することに寄与できれば幸いです。旧文理学部の改組によって創設された教養学部は2015年度に50周年を迎えました半世紀の歩みの中で、教養学部が社会的な希望を高めることができたのは、学部の教職員の方々の尽力と同窓生の皆さまの努力の賜物と深く感謝いたします。社会的価値観が多様化し、物事の本質を真摯に探究するリベラルアーツの重要性が一段高まる中で、今後とも学部とご協力して、学びの場としての教養学部の環境づくりに一層尽力していきたいと思えます。

けやき会の人々の輪、活動の波をさらに強固に広げていくために、皆様のさらなるご協力をお願い申し上げます。

教養学部長あいさつ

市橋秀夫先生

教養学部長の2年目を務めさせていただきまます市橋です。同窓会のみならずには、変わらぬ熱いご支援をいただいております、心よりお礼申し上げます。

大型の補助金を交付されてきたグローバル人材育成事業が昨年度で終了し、教養学部にとって本年度はいろんな意味で新たな取り組みをスタートさせていく年になります。

大きなニュースとしましては、入試方法の変更があります。本年度より、推薦入試枠として30名を受け入れます。これは、多様な能力や特性を持った学生を受け入れ、流動化の激しい社会でより創造的な人材を育成していくという、日本の国立大学に課せられた使命に応えるものです。面接などを主とした入試には、ペーパー試験と異なるさまざまな課題がありますので、それをクリアできるよう準備しているところです。大学教員の本務たる教育

## 2017年度けやき会総会・講演会のお知らせ

日時 6月24日(土) 1時半 場所 埼玉県立近代美術館

講演 梶島邦江 埼玉大学名誉教授

演題「埼玉の魅力を探して」 市民公開

総会 午後3時半

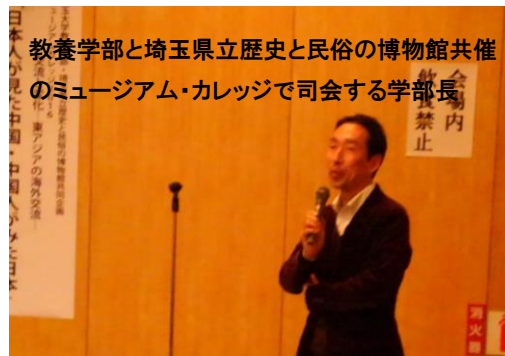
懇親会 午後4時～午後6時 会費 5000円 2次会あり

## 参加して交流を深めよう!



2次会にて

と研究におきましては、より高い質の達成に向けた取り組みを行なっていくこととなりません。うれしいことに、昨年度は卒業生で妖怪研究の第一人者として知られる文化人類学の小松和彦先生（国際日本文化研究センター所長）が、文化功労者となられ本学のフェローにも就任されました。小松先生には研究成果の発信の重要性などご助言いただいておりますが、その前提として、刊行される論文や著書の数を増やしたり、科研費などの外部資金の獲得も進めなければなりません。こうした評価指標の是非にはさまざまな議論がございますが、私たちの研究にプラスに働くような位置づけをしつつ、対応していくこととなります。



教育では、現在の専修専攻体制に代わる、あるいはそれを補強することのできる、よりフレキシブルで効果のあるカリキュラム体系を提供できるしくみを模索することが課題となっております。多様でありつつ深い専門知を自ら学ぶことのできるラーニング・カリキュラムを提供していきたいのです。

最後になりましたが、同窓会との関係強化も本年度の重要な課題です。同窓会をはじめ、教養学部にご支援いただいている地域社会の関係諸団体みなさんと継続して意見交換をできる場を設けることなどを検討しておりますので、引き続きみなさまの暖かいご支援を賜ればと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

## 転退職する 先生から

### 高木英至先生

（社会心理学）

### 変わってきた大学

退職する教員の挨拶の原稿依頼を頂いた。私はこの3月をもって定年退職する。埼玉大学（教養学部）に着任したのは1983年である。東京デイズニールランドが開園した年である。そして、退職にあたって拝見した人事記録によると、34年在職したことになる。そういわれると随分と長く勤めていたものだと思う。

この間、世の中も大学も私自身もいろんな変化を経た。この文章を目にする卒業生の方は、埼玉大学を訪れてみれば大学の外観も変わったと感じるだろう。大学内の建物の基本的な配置は変わらない。しかし多少の新築、増築がある上に改修をしているので、全般に大学の外観は以前より良くなったと思う。ただ緑は削減された。桜の木が林立していた場所は今は駐輪場になっている。経済学部棟の近くの林も薄くなったように感じる。バス停の位置は変わった。

大学の周囲も多少は変わった。私が着任したころは、埼玉大の周囲には田畑が多くみられた。今はほとんどない。かつてのデニーズや不二家のレストランは今はない。デニーズがあった場所には今は丸亀製麺がある。ひところ、郵便局の近くにレッド・ロブスターがあったのだけれど、その場所は低価格のサイゼリアに変わった。ただ正門前のBe-PLANTは、以前同様に盛況である。Be-PLANTに行くと、当時のビープラ井やカレーを食べながら、『北斗の拳』や『魁、男塾』を読んでいたことを思い出す。以前、Be-PLANTの店は2階のフロアを使っていたと思うが、今は1階部分で営業している。埼玉大近くのマルエツは今も昔と変わらない。なぜか名前がウオエツ（魚悦）に変わった。





成績は少し前まで紙で成績表を交付することで伝えていたけれど、現在は学生がネットを介してすぐに見られるように変わった。  
変わったところを探してみると他にもある。授業の講義概要は昔から冊子で配布されていた。が、この講義概要はシラバスとなり、何回目の授業で何をするということまで伝えることが原則となった。評価は様々であるが、このシラバスは今は紙では配布されず、Webシラバスに変わった。かなり前から学生による授業評価の調査も行われるようになった。授業ごとの評価の調査結果は、授業が終わると教員に送られて来るようになった。実質はまだまだ不徹底であるが、授業に対しては従来の講義番号に加え、アメリカ流のコースナンバーが振られるようになった。授業における成績

評価の詳細な基準（ルーブリック）も、いずれ公開されるようになるだろう。

教養学部において、変わらないのは卒論（や修論）のやり方である。指導というのとは気が引けるが、卒論（や修論）を指導した学生の数は、教員の中では私は多い方だったろう。卒論がどうであつたかは人さまざまで一概には言えない。就職活動の合間でなかなか時間がかけられなかった人もいた。しかし多くの努力が卒論の中に注がれたことは印象深く頭に残っている。ある程度満足できるものを仕上げたという記憶は、その後の自信につながっただろうと思う。こうした学生とのやり取りは大学の外観は変わっても変わることなく続くのだらうと思う。

## 伊藤博明先生

（芸術論）

### 埼玉大学での29年間

2017年3月31日をもって埼玉大学を退職し、4月1日より専修大学文学部哲学科（生田校舎）に勤務することになりました。定年まで4年を残しての移

籍となりますが、埼玉大学では29年の長きにわたつて教鞭をとつていたわけで、正直なところ、「もう十分でしょう」という気持ちも抱いております。

私が埼玉大学教養部に「倫理学」担当の講師として赴任したのは、1988年（昭和63年）4月のことでした。それまで、1年半のフィレンツェ大学への留学を除いては、北海道で31年間過ごしておりましたので、「内地」（北海道では本州のことをこのように呼びます）での暮らしは驚くことも多く、まさか人生の半分を埼玉の地で過ごすことになるうとは思っておりませんでした。

当時の教養部では、量義治先生と福島保夫先生が「哲学」の授業をお持ちになつていました。教養学部の哲学・思想コースには、長谷川三千子先生と西村清和先生のほか、転出した伊藤勝彦先生の後任として、着任したばかりの貫成人さんがいらつしやいました。私は教養部だったので、卒論や修論の指導にあたることはありませんでしたが、教養学部での「倫理学概論」

（教職科目）を担当し、卒論発表会や種々のコンパ、また夏の合宿（純粋な慰安旅行）にも参加しておりましたので、教員や学生と親しく接触する機会も多くありました。

埼玉大学に奉職して、初めの5、6年ほどは、勉強する時間がたつぷり取れました。通年の授業で4単位が標準のゆつくりしたペースで、1講義の受講生は多いとはいえ、学生や院生の指導もなく、学部入試に関するさまざまな業務もなく、また若造ゆえに、忙しく責任の重い委員にも任命されることなく、今から思えば、優雅な生活を送っておりました。その間に、科学研究費補助金の「研究成果公開促進費」の交付を受けて、最初の単著を刊行できたのも、ひとえに恵まれた環境のゆえでありました。

「激震」の時代は、1991年の文科省による、大学設置基準の大綱化の決定とともにやって来ました。全国の国立大学のほぼすべては、教育カリキュラムを大幅に見直し、教養部を解体して新しい学部の設立をめざしました。結果的にで

すが、埼玉大学の場合は、教養部の教員は全員が既存の各学部に分属することになりました。今から考えれば、これが「終わりの始まり」であり、その後に、国立大学の独立行政法人化が強行され、国立大学をめぐる環境は劣化の一途をたどっていきます。

話を戻しますと、私は教養学部へと配置換えとなることが決まり、哲学・思想コースに属することになるはずでした。これは、誰が考えても順当な成り行きでしょう。ところが、美学がご専門の西村先生に道端で、車の中から呼び止められ、新道沿いの「ガスト」でアイスコーヒーを飲みながら、「今度、芸術論コースをつくらうと思うのだが、協力してくれないか」と頼まれたのです。日頃より、敬愛している先生のありがたなお言葉ですので、「宜しくお願ひします」と即答いたしました。

とはいえ、内心は半信半疑でした。私は西洋哲学科の出身であり、そもそも「倫理学」の担当も怪しいのに、いきなり「芸術論」に鞍替えすることが法治国家で許



されるものでしょうか。詳しいいきさつは(恐いので)尋ねなかったのですが、豪腕で一步も引かない西村先生は教養学部教授会を説き伏せたようです。上述の処女作が『ヘルメスとシビュラのイコノロジー』という、ルネサンスの思想と美術の関係を扱った研究であったことが功を奏したのかもしれませんが。いずれにせよ、私はあわてて、美術史学会と美学会に入会したのです。それ以来、外山紀久子さんを3人目の同僚に迎え、西村先生が東大に転出後は、

後任の井口壽乃先生とともに、楽しく芸術論コース(専攻)で学生・院生と接してきました。授業の内容も先生のリクエストにしばしば応じました。イタリア語も何年か教えましたし、古典ヘブライ語の授業を行ったこともあり。キーボードを教室内に持ち込んで、(無謀にも)「ジャズの歴史」を講義したこともあり。ました。

この5年間は管理職に就いていたために、学生の皆さんや同僚の先生方に迷惑をかけてきました。かつては、三峯山スピリチュアルツアー、「ミレーを見れ」山梨県立美術館ツアー、「モエレ沼公園」現地集合札幌ツアー、などアクティヴに活動していたのが夢のようです。紙面上の写真は、学生の要望に応えて、2年前にヴェネツィアのアカデミア美術館を案内したときのものです。カーニヴァルの最中だったので、街は人々で溢れていましたが、美術館はご覧のとおり閑散として、ジョルジョーネの《テンペスタ》も独り占め状態でした。

私自身は埼玉大学での

日々を振り返り、感謝の念に堪えません。元学生であった皆様も同様に、教養学部で過ごした日々が幸福な思い出となっていることを念じて、筆を置きます。ありがとうございました。

## 仁科弘之先生

(理論言語学・人工知能)

### 三つの縁(えにし)

大学院を中退して初めて赴任した大学は山形大でした。共通一次テスト(今のセンター試験)が始まった、その正に1979年でした。山形大では、それこそ必死で、半分学生のように、その様に勤めました。埼玉大文理学部を卒業された先生が採用の音頭を取ってくれたのです。

これが2つ目の縁でした。その講師3年目に入り、埼玉大教養部の公募を見つけました。親のこともあり関東に戻りたいと思い、応募しました。昭和57年の初めのとある土曜日に、面接試験に呼び出されました。

旧教養部棟(今の研究機構棟)5階、エレベータよりの北側の会議室で面接試

験を受けました。山形から来るのにはまだ特急を使っていました。駅弁にもこだわりカツ井とかを探したのですが、代わりに確か、だるま弁当を買いました。

東北新幹線が大宮まで開通した年でした。「君はモンタギュー文法というものをやっているそうだから、説明してみて下さい。」そこには、英語史・辞書学、シェークスピア学、英文学、比較文学など、専門こそ違いますが、才気煥発な若手の先生が集まっていました。それではと、白板に書きながら好き勝手にしゃべりました。いきなり、「お子さんはいますか。」という専門外の質問も出ましたが、それにも答えました。とにかく上気した気分で山形の2DKのアパートに戻りました。駅弁の御利益にすがりながら。ややあって、電話がきました。電話越しに事務長の声「埼玉大学教養部です、学部長にかかります。」と言います。さあ、「教養部長です、あなたを助教授として採用します。」という声が聞こえました。「有難うございます。有り難うございませ

た。」と言いました。その後、勤務地の山形大に、教養部の学部長、英語科の先生がたが私を「もらい受け?」するため仁義を切り?に求めてくれました。その晩は山形大の関係者と酒宴になった、いやそれはわからないですが、そのようでした。私もその翌朝、雪の降り積もったホームに、(賄賂に相当しない小ぶりの)地酒の土産をもって埼玉大の先生方を見送りに行きました(残念ながら私は下戸でした)。その春、ちょうど卒業して東京の大学院を受験しに行く途中での教養子と一緒に特急で関東に戻ってきました。

教養部は自由闊達な場所でした。理系は毎晩研究室にこもり頻々と(しかし短い?)論文を書く。文系はあまり学校に来ないし、論文数も少ないが、それでも長い論文を書くこともある。翻訳書も著書も出版する。そんなことを互いに認め合い、皆が独立独歩の姿勢を保っていました。私は、当時から理工系教官にアレルギーはなく、何人かの先生に親しくしていただいています。対岸の教養学部には



旧制山高出身の先生もおられて、やはり親切にしてくださいました。教養学部のもうお一人の先生は私が駿台で教わった先生の一人でした。夏期講習の文法講義でその先生からは、受験勉強よりもむしろ、「変形文法」という秘術の呪文のような言葉を教わりました。奇しくも、これを私はモンタギュー意味論と共にその後研究することになります。これが3つ目の縁でした。埼玉大生の中には某予備校の癖が抜けずに講義ノート表紙に「師」と書く人もいました。教育学部には酒を飲むと C1 英語を使う怪しい！英語教育史の先生もおられました。

生をじっくり育て、そして自分の研究を完成させることもよいことです。」と言いたげなのはすぐにわかりました。そして、ややあって教養部が廃止になり、私は教養学部に来ました。経済学部、教育学部に行った先生がたもおられました。そのときの思いを皆背負っていました。教養学部に来て驚いたことは、あんなに当たらないかった科研費が当たるようになったことです。「学」のついた恩恵があったのでしようか？前の所よりも近い分野同士の研究者達が集まっていた。年が経つごとに少しずつ楽になってゆきました。

そうそう、実は私は大学2年生の時、昭和47年頃に埼玉大を訪れています。時はベトナム戦争の末期で、私は米国の覇権主義に反対でしたが消極的に ESS に属していました。関東リーグのコンテストが埼玉大で開催され、部長に引き連れられ埼玉大を訪れました。その土曜日の昼、北浦和駅前の蕎麦屋でカレーを食べバスに乗りました。バスが校門直後の停車場に停まった後、さらに奥まで入って行くのを見て驚きました。当時は構内のビルも少なかったのですが、狭小な土地が更に2段になっていた自校のキャンパスに比べ、あの障害物のない広大さが印象的でした。そのコンテストでは、我が ESS は厚化粧（ごめん下さい）のリーダー率いる某学院大 ESS に負けました。これが1つ目の縁でした。

「大きくなくともきらりと光る大学」という目的には、埼玉大は既に到達したものと信じます。学生の皆さんと教職員の皆さんに心よりお礼を申し上げます。

**埼玉大学の16年間**

**永田雅啓先生**  
(国際政治学)

**21世紀を担う皆さんへ**

埼玉大学に着任したのは1994年でしたが、23年間はあつという間で、私も本年度で4年生の皆さんと一緒に卒業することになりました。今日まで無事に過ごせたのは、支えて下さった先輩並びに同僚の諸先生方、大学のスタッフの皆さんのおかげです。そして、それれ約4年という短い期間ではありましたが、教え子の皆さんの伴走をできたことは、私にとって大きな喜びであり、生き甲斐でもありました。

埼玉大学へ来る前までは、民間の研究所に勤務しており、経済理論を実際の経済現象に適用する実証分析が中心でした。通商白書の作成をサポートしたり、産官



学の委員で構成される研究プロジェクトをマネージしたり、夜の11時まで仕事をし、都内から自宅のある茨城県までタクシードで帰宅することもしばしばでした。

1980年代後半に行つたアメリカの地域経済と貿易の關係に関する研究では、レーガン政権下での軍事支出の拡大がアメリカの両岸経済を活性化させた一方で、五大湖周辺の工業集積地に打撃を与え資源配分を歪めた可能性について地域産業連関表を用いて実証的に分析を行いました。その成果は Wasily Leontief 教授（1973年ノーベル経済学賞）を通じて New York Times で2度に亘って紹介され、アメリカで大きな反響を呼びました。今のトランプ現象を見るとその当時のことを彷彿とさせます。埼玉大学に移籍してから

は多忙な時間から解放されてホッとしたが、大学には教育責任があり、新たな挑戦でした。現在、国際関係プロジェクト室となっているところは、私が着任したころは実験室と呼ばれ、物置のようで、蛍光灯の1/3は切れた状態でした。そんな所でも10年前の経済週刊誌（エコノミスト）を引っぱり出して真剣に学ぼうとしている学生がいることを知って、何とかしないとダメだな、と思ったのを覚えています。幸い科学研究費で研究資金は十分あったので、学習環境を整えるために、大学の教育研究費を累計で1000万円くらいは注ぎ込んだと思います。

着任当初は熱心過ぎて（？）卒業パーティーの時に（すでに合格している卒業論文を改善するために）指導していたところ、「卒論指導をしているらしいよ」と人だかりができ、写真を撮る人まで出てきた記憶があります。また、ある時期から英語の教科書を使い始めました。これは皆さんの英語力を高める目的と言うよりも、本音を言うと、ゼミの人数が多すぎる（15人

程度）ので、それを減らすためでした。そして予習を担保するために毎回試験を実施しましたが、驚いたことに、学生の皆さんは諦めるどころか、逃げずに食いついてくるのです。

ある時、ゼミの最初の授業で、教科書は英語で、毎回20〜30ページの予習が必須なことを強調していたところ、ある学生から「先生、英語でやるのは脅しになりませんよ。」と軽くいなされました。気が付いてみるとグローバル・ガバナンス専修の他の先生方も英語の教科書を普通に使い、学生もそれが当たり前になり、今では1/3が留学し、国際機関やワシントンDCの研究所で本格的な海外インターンシップを受ける学生も珍しくなく、卒業時点で約40%がTOEICで800点を超えるようになりました。おそらく、人文社会系の学部生としては日本で一番勉強しているところの1つではないかと思っています。

就職して数年経った卒業生から連絡をもらい、海外の大学院に入学して難民の勉強をしたいので推薦状を書いてもらえないか、と頼まれたり、国連に入るために安定した仕事を辞めて途上国での開発コンサルタントに転職したりする人もいます。教養学部在学中に持っていた純粋な初心を忘れない卒業生に接すると、その志の高さに頭が下がります。教養学部生は能力もあり、粘り強い努力家で、きちんとした倫理感も備えている素晴らしい人材です。皆さんのような人たちが日本を支え、世界を拓いていくのです。これからも埼玉大学の出身であることに自信と誇りを持って生きていくつもりだと思います。

今、埼玉大学時代を振り返ってみると、私の主要な関心事は教育の改善と大学の国際化の推進でした。これからは、研究面でも国際経済学の理論を教育経済学の分野に応用して新たな領域が開けないか、挑戦してみたいと思っています。私は埼玉大学を去りますが、必要ならいつでも相談に来てください。皆さんがこれから幸せな人生を歩んでいくことを心から祈っています。

分を創ることである。

Life isn't about finding yourself. Life is about creating yourself.

by George Bernard Shaw

## 梶島邦江先生

（まちづくり）

### 埼玉大学の16年間

2001年に赴任し、16年間を埼玉大学で過ごした。理工学出身の私がなぜ、ここに・・・とお思になる方も多かるうが、その頃から教養学部も地域貢献を求められるようになり、困った末に採用したのが私だった、ようだ。そんな学部の意図を知りつつ、私は少し違うことも考えていた。それは「教養としてのまちづくり」である。

当時、イギリスのチャールズ皇太子がロンドンの景観に対して、メディアで堂々と批判、持論を展開しており、王室・皇室のあり方の違いはともかく、都市・田園景観の美しい国、地域は、国民の景観に対する知識や関心も高いのだ、教養として都市や景観が語

られるのだ、と妙に感心をしたものである。日本でもまちづくりは教養として成立するだろうか？その可能性があるとすれば、教養学部のようなところからではないかと考え、喜び勇んで赴任したことを覚えている。もっともその直後、病を患ったので、「教養としてのまちづくり」はうたかたの夢に終わった。

その代わりに学生と楽しく行ってきたのが、埼玉を





フィールドとした地域プロジェクトである。「大久保プロジェクト」(2004年、2008年)は、大学が立地する桜区大久保に、ホームタウンと呼べるだけの知識と経験を積み重ねること、地域の資源を市民と共に確認すること、地域に直に触れる愉快さを共に味わうこと、などを目指して、まち歩きを開催したり桜区PRを作成してきた。同時に、博物館や民間企業(舟和)と大学とが、どうしたらうまく連携、協働できるのかも検討した。

2007年から現在まで続く「サッカープロジェクト」は、2つのリーグチームを擁する『サッカーのまち』さいたまの魅力を見出し、伝えることを目的に、サッカーがいかに埼玉の地に根付き、広がったのか。市民生活にどのようなドラマをもたらし、新しい人のつながりを生み出したのか等を検証、情報発信していくものであった。展示会4回、シンポジウムを2回開催し、「埼玉サッカー100周年記念展示図録」も発刊した。浦和レッズと大宮アルディージャの観戦者調査

もほぼ毎年実施しており、ここ10年間の観戦者変容は、研究室の棚に並んだ調査票を見るととても良く分かる。

「秩父・立沢プロジェクト」(2006年、2012年)は、限界集落・皆野町立沢地区で増え続ける耕作放棄地を、なんとか防ぐことはできないか、との思いから始めたものである。高齢のために野菜を作っても、直売所に持って行くことができないなら、消費者に畑に来てもらおう! ついでに畑からの素晴らしい眺望も楽しんでもらおう!と、「天空のお散歩畑」を提案し、システムの一部は今も機能している。

2014年から始めたのが「狭山茶プロジェクト」である。埼玉県代表的特産品である狭山茶も、近年の茶消費の低迷やブランド力の低下が災いして、放棄茶園も増えてきた。新たな市場開拓を望んでも、小規模農家の集まりゆえに商品開発力は乏しく、輸出による経営の下支えも望むべくもなかった。しかし、自園自製自販という特徴的な狭山茶の経営形態が維持してきた、質の高い茶葉生産は

何としても残したい! 美しい茶畑景観も壊したくない! との思いから、商品開発を手伝い、輸出の支援を行い、茶畑景観と茶の味を楽しむ「埼玉の旬を喰らう」イベントを開催してきた。

まだまだ端緒を開いたところなので、さして目覚ましい成果は挙げられていないが、学生の柔らかな発想が創り出した商品は浦和アトレの中にあるザ・ガーデンで取り扱っていただいているし、モンゴルへの狭山茶輸出は増え続けている。

今回、改めて調べてみて、手掛けたプロジェクトの多さに驚いたが、それぞれの時代、地域で抱いた想いも一緒に甦ってきた。卒業生の皆さんも、地域に苦しみ、人に悩んだ当時を思い出し、懸命だった自分、純粋だった時間をこの機に思い出し、はいかがか? 少し飽き飽きしてきた「今」へのカンフル剤になること請け合いです。

さて私は、4月以降、プロジェクトとして取り組んできた狭山茶の輸出や商品化支援をNPOで行っていく予定である。はて、うまくいきますやら・・・。

## 同窓生から

### 熊本大地震

立山良知(教養69年卒)

熊本県菊池市在住

2016年3月31日

(木)に熊本赤十字社病院で心臓手術を受けて4月12日(火)に熊本再春荘病院に転院したばかりでした。翌日の13日に偶然、1995年3月17日に起きた阪神淡路大震災に遭遇された体験を持つ病棟の看護師様と当時の恐怖体験を語っていましたが、まさか自分達にあの災害が降りかかってくるとは思いもよりませんでした。(私は当時関西に居りました)

4月14日(木)午後9時26分震度7の熊本地震が起きました。私は3階病棟にいましたが、突然の突き上げと地鳴りに続き烈しい揺れに、始めは驚きばかりで、その後震度7マグニチュード6.5の地震と分かり、病室全員恐怖に慄きました。その後何回か揺れが間歇的に起きました。

翌15日(金)震度6強が



起き、起きる揺れのたびに、テレビ速報を見つめ、不安で仕方ありませんでした。まさか前日14日のは前震で本震がその後に来るとは夢にも思いませんでした。14日、15日は家族とそれぞれの状況を確認し、親戚、知人、友人など各方面からたくさん電話をいただきました。

16日(土)午前1時25分に震度7マグニチュード7.3の本震が来てしまいました。ドンという地鳴りと烈しい揺れにベッドの下に潜り、ベッドの脚に掴まり、揺れが治まるのを待つのがやつとでした。余震は次々に起き、テレビ報道と周辺公共機関の緊急対応などの状況



で大災害発生が分かりました。病院内も至る所が壊れ、他地域からの地震被害者の緊急受入れが行われ、病院の機能も麻痺寸前で自分のことをあれこれという状況ではありませんでした。4月26日(火)の退院まで10日間は院内エレベーター、食堂が使用不能になり非常事態でした。以降、余震は絶え間なく続き、新聞、テレビ、家族からの情報で熊本県内至る所が大変なことになっているのが判明し、入院中の自分としては何もできず、非常に忸怩たる思いでした。

4月26日(火)に退院して初めて我が家の惨状を見て愕然としました。熊本全県では益城町、西原村、御

船町、熊本市などが被害甚大で菊池市は規模的には小さかったものの、我が家の罹災状況は住居、納屋が半壊判定で復旧工事の対象となりましたが、全県広域の災害とあつて工事の進捗は遅々として2017年2月現在も養生状態で生活しております。本年中には何とかしたいと思っております。

4000回を超える地震とそれに伴う死亡者200余名、家屋などの倒壊夥しく、生涯忘れることのできない大惨事となりました。

2016年10月頃までは余震がたびたび起こり、その都度テレビ画面で地震の確認をして我が家由来の揺れでないと確認し、安心しましたが夜もなかなか眠れませんでした。

以下、私が入院していた頃の一人で大地震に耐えて自宅に居た妻の話です。4月14日の前震は激しい揺れにもかかわらず、何の被害もなく、台所のテーブルの下で難を逃れました。翌15日の夜は余震が来るとの報道でしたので、布団の横に頑丈な机を置いて寝ました。うとうとした途端、ものすごい地鳴りとともに縦に横

にずいぶん長い時間揺さぶられていたように感じました。その時は準備をしていた机の下に布団ごと潜り込み、揺れが修まって、懐中電灯をつけると、散乱した家財に愕然としました。「大丈夫か?」との夫からの電話、また嫁達から「お母さん!早く外に出て!」との電話を最後にしばらくは何処とも連絡が取れなくなっていました。

電気の消えた家の真っ暗な中で一人、心細い思いをしながら急いで外に出る準備をしました。やっとの思いで外に出て見ても遠くの方で懐中電灯の明かりが見えるだけでどここの家も真っ暗でした。途方に暮れているとお隣様(農家)から声を掛けてもらい、ダンプの荷台の上で肩を寄せ合い、皆で一夜を過ごしました。ダンプの上はとても寒かったのですが、隣人一家と共に過ごした一夜は今まで経験したことのない人の温かさを肌で感じた時間でした。その互助心は、生涯忘れることができません。その夜の星空はとても綺麗でした。翌日からは、地区の公民館、中学校の体育館などの

避難所生活を経て3日後、やっと自宅に戻ることができました。自宅に戻ってみると、母屋、納屋の白壁が崩れ、家の中に入ってみると内壁に亀裂が入り、食器棚、本棚、エアコンなどの家財が倒壊氾濫し、足の踏み場もない状態でただ茫然とするばかりでした。

そういった状況の中で妻は気丈に頑張りました。ご近所の皆様に助けてもらいながら私の退院に向けて取り敢えず家の中の片付けをしてくれたのでした。どうにか2人の居室が確保できて、間もなく私は退院の日を迎えることができました。今回は多くの方にご心配をおかけしましたが、心のこもった励ましをいただき、たいへんありがたく、感謝しております。特に学生時代のお先輩、同輩の皆様からお寄せいただいた心のこもったご支援は生涯の私の励みになりました。

熊本地震を経験して初めて6年前の東日本大震災にあわれた方々の本当の苦しみ、悲しみが分かりました。今後は皆様のお気持ちに込めるためにも家族全員で挫けずに前向きに一つ一つ課題を克服し、復興に全力を注いでいきたいと思っております。

## 転機、そして

## 再び大学へ

増淵勝人(84年卒)

川越市在住

今ではもうすでに昔の話で数十年前のことですが、私は埼玉大学の卒業式には出席せず、3月末迄の長丁場を、単身でオートバイ(750CC)にまたがり、九州から山陽、四国、紀伊半島を走っていました。4月から社会人となり、銀行に勤めることになっていましたので、自由な学生気分を満喫し、最後の放浪と称して、新しいスタートへの反発から取った原始的な行動です。

しかしそんな大学の公式行事にも出ない私を、お天道様は見逃すわけがありません。和歌山の高野山からの下り左カーブで、一瞬の気のゆるみと、道路に薄く飛んできていた砂に滑り、新車であった750ナナハンが大転倒し、私は吹っ飛んでしまいました。





怪我は、たいしたことないと思っただけですが、全身打撲と擦過傷、心的ストレスでその夜ショック状態となり、地元の安ビジネスホテルの一室で熱と震えで何も食べられず、しばらくもろうとうとしていました。

4月1日には、銀行の入行式があります。逆算すると、このままでは間に合わなくなる可能性があり、銀行を取るか、自愛を取るか、厳しい選択となり、私は腹をくくってフラフラ走り出しました。家に到着したのは3月30日、式の前日でした。

そんなスタートで、ようやくくまじめに銀行で働きだし、それなりに出世もし、

支店や本部で面白い毎日を経験していましたが、ちょうど45歳の時に転機が訪れました。考えてもみなかった転職です。

それまでは、地域経済や中小企業のために仕事をしていたのですが、ある日突然、自分の実力を他で試してはどうか、日本全国、世界で、また超一流企業相手に、仕事ができるのか、やれないのか、チャレンジしてみたくなったのです。そう考えると、せつかくなら、現職と関係ない、知り合いがいない企業で、かつ今までの自分の蓄積が生かせるところに挑戦したくなりしました。それは、外資系のコンサルティング会社です。

そこで4年間と少し、英語と格闘こそしましたが、いわゆるデカイ案件をいくつかこなし、一流と呼ばれる会社の仕事も少し受け、超優秀な方々と呼ばれる人種と話をしながら、今までにない体験を積みみました。

その後、わたしはサラリーマンをやめ、農業に転職しました。これはこれでまた大きな転機でした。

実は私は農家ではありません。農家は、読んで字の



川越市にあるぶっち農園

ごとく農を営む家系のこと、ある意味特権です。今では少し緩和しているやに聞いていますが、実際のところ、農家という称号を得ようにも、簡単にはいかず、一般的には、なかなか農家にはなれません。農家は、農業をやめても農家でありますが、農業をやっても農家になれるわけではありません。

行政の方と、こんな会話を何度かした記憶があります。私「農業をやりたいので畑を借りたいのですが？」行政「農業をやったことはあるのか？」私「畑を借りられれば農業をやります。」行政「農業をやったことない人に畑は貸せな

い」私「畑が借りられないと農業は出来ない」行政「農業機械はあるのか？」私「畑を借りられれば機械は買います」行政「機械を持つていない人に畑は貸せない」……………

そんなこんなでしたが、なんとか機会に恵まれ、行政の支援も受け、農家となりました。

50アール超の畑を借り、田んぼも2枚借り、大手スーパーに出荷しながら、悪戦苦闘した充実した数年間でしたが、そこでまた考えもしなかった転機が訪れました。

ある日、何気ない場所です。日本経済新聞を数年ぶりに見たところ、その面白さにびっくりし、隅から隅まで読んでしまいました。農業従事に日給はいらないと解約していたのですが、数年間忘れていた経済や産業・経営への感触が蘇ったのです。

時は既に54歳の年齢に達しており、さてどうするものかと思案し、迷ったのですが、農業を続けながら、やはりもう一度、経済や産業、企業経営に関する仕事もしたいという欲求に勝て

ず、大学院に行くことにしました。

修士課程は、もちろん埼玉大学も候補にしましたが、ビジネススクールと呼ばれる(MBA)所で、かつ中小企業診断士の資格が取得できるところ、麹町にある大学院にしました。そこは、平日夜や土日の授業により、社会人だけのグループワークと企業の診断実習から形成された実践的なカリキュラムが特徴です。

埼玉大学を卒業してから約30年後に、再び大学に入ったことは、それはそれで大きな転機で、自分としてもいささかびっくりした決断でした。

しかしながら、本稿の執筆で改めて振り返ってみますと、つくづく自分を転機に導くエネルギーは、どこから来るのか不思議です。決して楽とは言えない道の選択を、なぜ繰り返し、なぜ新しいフィールドに挑戦するのでしょうか。

それはおそらく、高校から大学にかけて形成された自己そのものから出続けているフォースであり、埼玉大学で育成していただいた自主と協調の精神、がある

からです。そして何よりも、同じ埼玉大学卒業生の妻の理解が、エネルギー源となっているからです。

再びの大学も、無遅刻無欠席で2年が過ぎ、この卒業です。

## 現役生から

## 自分の居場所

### 小林愛理（3年）

今回は私の大学生活について書きたいと思う。私が大学生活で力を入れて取り組んでいることは部活動だ。体育会アメリカンフットボール部に所属し、マネージャーをしている。どうしてアメフト部のマネージャーをすることにしたのかと聞かれることがよくある。根本的なきっかけは高校時代での生活に遡る。私は埼玉県内の女子高出身で、高校時代は勉強に専念したかったため活動が少ない文化部に所属していた。そのような私だが、高校時代から、大学に入学したら勉強以外にも何か自分で成し遂げたいと思えるものを見つけない

ただなんとなく4年間を過ごすのではなく、何かに向かって頑張る大学生活を過ごしたいと考えていた。

埼玉大学に入学し、たまたま勧誘してもらい、雰囲気もよく目標に向かってチームで努力をしているアメフト部に惹かれた。高校時代は先のことの心配ばかりして「今」やりたいと思うことを断念してしまった私だったが、ここで意を決して入部したのだ。

埼玉大アメフト部のチーム名はプリムローズである。県花である桜草の意だ。英語に直すとPRIMROSEであるが、複数形になっていない（アメフトのチーム名は普通は複数形なので）というところで学部で私が所属する専攻の教授にはこのことを頻繁に指摘される。練習環境や部員数は私立大等の他大学と比べても決して恵まれたものとは言えないが、今ある環境、自分たちが持っているものを最大限に活かして、日々の練習に取り組んでいる。

後の時間、授業の空きコマなどの時間に、部員が草刈機を使って草を刈るなどしている。それでも、一週間の夏合宿から大学に戻って来て大学のグラウンドを見ると、草がたくさん生えてきているのである。部員一同絶望に陥る。雨が降ったときは池のような水たまりがいくつもできる。練習前にスポンジを使って水抜きをする。このようにして、グラウンドの状態を保ち、環境を最大限に活かしている。

日々のチームの努力が結果となって表れたのは昨年の秋季関東学生リーグ戦である。三部Cブロックで優勝し、昨年十二月半ばに行われた2部3部入替戦で勝利し、2部昇格を果たした。埼玉大アメフト部が2部の舞台に立つのは20年ぶりだ。ここ数年は入替戦への出場権は手にするものの、あと一步のところでおよばなかった。2部昇格を果たすことができたのは、現役の頑張りもあるかもしれないが、今まで悔しい思いを経験してきた先輩方の努力あってこそのものだと感じる。2部は、環境も人数も遥かに



私たちの上をいくチームばかりであるが、その中で戦い抜いていくために全力で取り組んでいきたい。

ここまで過ごしてきた3年間は、部活動だけの大学生活ではない。教養学部では、ヨーロッパ・アメリカ

文化専修のアメリカ文化専攻に所属している。元々入学時にアメリカ研究に進むことになるとは考えてもいなかった。社会学系か歴史系に進もうと考え、2年生の前半まではアメリカ研究ではなく別の専修に属していた。教養学部では様々な講義を履修することができたので、その中で学ぶ内容というよりも自分が学ぶ姿勢を変えたいと気が付くことができた。

私は高校時代までを含め今まで受け身で学んできたため、自分から主体的に考え、問題を投げかけ、議論するということが不得意であった。アメリカ研究での学びは、私にとって新しい学び方ができると感じた。今でこそそのような学び方ができているとは言いがたいが、少なくともアメリカ研究での学びが好きであると胸を張って言える。学生同士の仲がとても良く、先生方含め個性的な人ばかりだ。アメリカ研究の研究室にはいつも誰かが座っているといっても過言ではない。

また、私は映画が好きで、アルバイトは映画館スタッ



フをしている。学部での勉強、部活動、アルバイトを両立させることは決して簡単なこととは言えないし、私自身この3年間それらを両立できていたかという点も難しい部分もある。しかし、これらは全て自分で切り開いて見つけた私の居場所であり、それらの活動を通して出会った人との繋がりと経験は今後の自分にとって何よりの大きな糧になると信じている。

## 生活の中心は3つ

宮本あかり（3年）

私は栃木県生まれで、埼玉大学に通うために大学の近くで独り暮らしをしています。そんな私の埼玉での学生生活を占めているものは3つです。

1つは、サークル活動です。私は中学校、高校とずっとバドミントンを続けてきて、大学でもバドミントンサークルに入っています。大学入学当初はバドミントンを続けようとは思っていませんでしたが、高校時代の先輩が所属していて、誘われて活動に行ってみる

と、実力のある先輩方が楽しそうに、でも真剣に競技している姿を見て、まだバドミントンを続けたいという思いが出てきて、入ることにしました。1年生の頃は、ただ参加して、強い先輩を見てすごいなと思うことしか出来なかったのですが、

私も一応運営側の役職についていますが、私自身、サークルに貢献する働きは出来ていません。最近は何のメンバに任せきりなところがあります。まだまだ私たちの代なので、どんな形でサークルに貢献できるかが最近の私の課題です。

2つ目は、バイトです。塾の講師をしています。これもサークルと同様に、最初はこんなにも続けるつもりはありませんでした。正直もつと割に合う仕事はいくらでもあると思います。子どもを預かる身ですから、かなりの責任も伴います。しかし1年続けたときに、私は今までに感じたことのないくらいのやりがいを感じていました。

興味を持ち、何回か受検しています。勉強と、自分の好きなことが重なるののも楽しいです。また、教員免許も取得したいと考えているので、卒業要件に入らない単位も取得しなくてはなりません。それは少し大変ですが、あと2年頑張りたいと思います。

3つ目は、やはり学業です。教養学部は必修の講義が多くないので、自分のとりたい講義を受けることが出来るのは、とても嬉しいです。ヨーロッパ・アメリカ文化専修ヨーロッパ文化専攻の私はドイツの文化や歴史、ヨーロッパ全体の建築物や美術作品に興味があるので、それに関する講義は出来るだけ選択しています。

また、せっかく埼玉という、東京に近い所に住んでいるので、美術館にも友達と出向いたりしています。一人でも行きます。大学生になって、美術館にたくさん行くようになってから、もつと大学で学ぶことに興味を持つようになった気がします。世界遺産検定にも

このような生活の経験を大学生ですることが出来ていることに感謝して、これが就職して社会人になった時の財産になると信じて、これからも努力していきたいです。



# あらかるど

## けやき会総会

2016年けやき会総会を6月25日(土)に北浦和駅前の埼玉県立近代美術館で開催しました。

### 講演会

午後1時半から94年卒小谷竜介氏(東北歴史博物館学芸員)の講演「東日本震災で被災した文化遺産を再生する」を市民にも公開して開催しました。

### ○講演会の概要

小谷氏自身も被災し、震災後、被災した文化財を救済する活動に携わった。獅子舞や神楽面など様々の文化財を救出してきた。地域のつながりを保つためには祭りや郷土芸能などの再開が地域復興の一步となる。

### 同窓会総会・懇親会

活動・会計報告・活動計画

小谷竜介氏の講演



画など全議案が承認された。続いて近代美術館内のレストランで同窓生、先生方、学生が親しく懇談できた。2次会(北浦和西口 笑笑)いろいろな世代、職業の同窓生が親しく懇談した。

## 文化人類学コース50周年記念会

2016年11月5日(土)埼玉大学で開催93名が集いました。第1部は学生会館で69年卒1期生の関根増男氏の司会で始まりました。同じ1期生の須藤健一氏(国立民族博物館館長)が開会の挨拶があつて、同窓生代表挨拶として2期生の小

松和彦氏(日本文化センター所長)の話がありました。次に文化人類学コース創設時の川田順造先生(文化功労章受賞者)、加藤泰健先生の歴代先生の思い出を語っていた。長島信弘先生のメッセージが読まれた

後、残念ながら亡くなられた友枝啓泰先生や阿部年晴先生(体調が悪く欠席され、しばらくして同じ月に亡くなられた)など50年の歴史をスライドを見ながら各代の思い出を振り返りました。現役の三浦敦先生が現在の



文化人類学コースの現状の説明がありました。

その後学生会館前の階段で集合写真を撮って、第2部は会場を第2食堂に移して、立食パーティーになりました。1期生の渡邊欣雄氏(首都大学東京名誉教授)の乾杯の後、和気あいあいの懇談に移り、4期生の峰崎進氏の司会で次々に参加者の思い出話を挟んで終わりました。

2次会は北浦和駅前の笑笑でいくつかのブロックに分かれて、まだ尽きぬ話で盛り上がりました。

## 祝 小松和彦氏文化功労章受章

### 埼玉大学フエロー授与式

1月24日(月)、本学は、平成2016年度文化功労者に選出された妖怪研究の第一人者小松和彦先生(1970年教養学部卒)に、卒業生・修了生で特に文化や学術の各界で顕著に優れた業績又は功労を挙げた方に与えられる「埼玉大学フエロー」の称号を贈りました。



た。式の後の講演では、小松先生は本学で学んだ日々を振り返り、「高校では知らなかったいろいろな学問があり、興味をもったことは何でも学べる場所に来られて、知的な刺激を受けた。埼玉大に来なかったら今の研究はしていなかったかもしれない。」と笑顔で語り、最後に「チャンスを見つけて自分の道を切り開き、社会で活躍してほしい。」と学生に期待を寄せました。



埼玉大学HPより



埼玉大学HPより



## 功労章受章を祝う会

2017年2月5日、上野公園内の韻松亭において、2期生の有志が主催して小松和彦氏（2期生）の文化功労章受章を祝う会があった。恩師の川田順造先生も招待され、文化人類学仲間の中牧弘允氏（前国立民族

## 2期生で小松君の文化

博物館教授）が祝辞を述べた。集まった十数人が全員話すことになったが、小松氏の受章祝辞を述べるかと思いきや、大学紛争があった当時の勇ましい若い頃の話で盛り上がった。

## けやき会支援

## 石澤進路相談

この会の中心講師である石澤和也氏は教養学部を2010年卒業し、慶応大学大学院修了の後、現在（株）クボタに勤務している。月1回程度土曜日に教養学部の教室で、進路相談を行う。

この会の中心講師である石澤和也氏は教養学部を2010年卒業し、慶応大学大学院修了の後、現在（株）クボタに勤務している。月1回程度土曜日に教養学部の教室で、進路相談を行う。

ている。全ての埼玉大学生が参加でき、人事担当の経験を活かして就活をサポートしている。

主な講座内容は、①就活上の明確な指針を説明②エントリーシートの添削③石澤講師や参加社会人（けやき会会長も参加する時も）が面接官となり、面接練習を複数回実施である。

この講座の基本方針は①広い業界から、志望業界を最大2つに絞る②受験企業は最大15社、ただし、全ての会社から内定を取るよう徹底的に対策する③なぜ自分を採用すべきか、同業他社でなくなぜその会社を志望するのか、明確化する。

## けやき会 寄附講座

けやき会の寄附講座名は「経済事情」で、内容は「グローバル時代のキャリア形成」です。この講座は全学部の学生が対象ですが、教養学部と経済学部の学生が多い。卒業生である講師陣は昨年とほぼ同じで、民間会社や公務員・教員として世界を相手に活躍している。したがって貴重な経験とどのようににキャリアを積んでいったのかをスライドなどを見せながら語っていた。学生時代の過ごし方にもアドバイスし、激励していた。

**教養学部同窓会 進路相談会**

**全ての埼玉大生が参加可能！！**  
全学部全学科対象、大学院生もOK、途中参加大歓迎。

**ES添削、模擬面接、グループワーク**  
社会人の視点から就活を完全サポート。

主な内定先：大手総合商社、大手自動車会社、クボタ、ヤマト運輸、JTB、セイコーエフソン、オートリフ、フジクラ、住友重機械、ディエステック、江崎グリコ、ニュージェック、日本政策金融公庫、国立文化財機構、海洋研究開発機構、さいたま市、東京都港区など

日時：1月21日（土）14:00～16:20  
場所：教養学部3階 33番教室

**参加費：完全無料！！**

講師：石澤 和也  
（株）クボタ勤務  
埼玉大学2010年卒業  
慶応大学大学院修了

下記にて、無料のES添削＆就活相談を受付中！

kazuya.ishizawa@kubota.com



石澤講師

2016/12/02 13:59





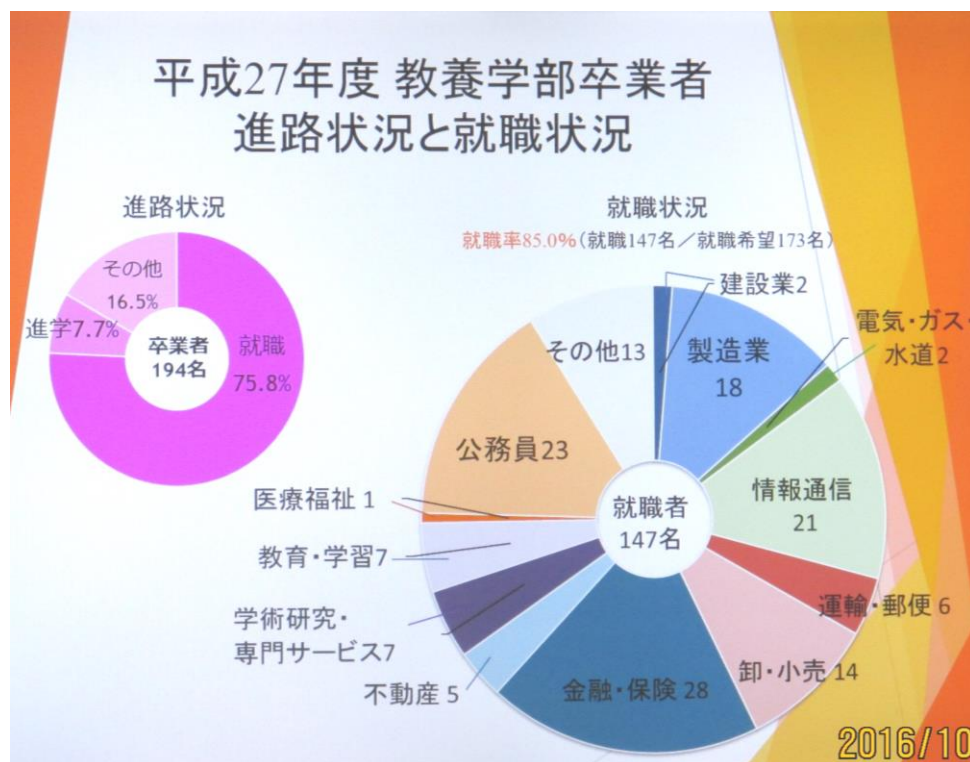
羽賀美樹講師と石澤和也講師



ポーランド留学生と赤津光一講師



中村義実講師

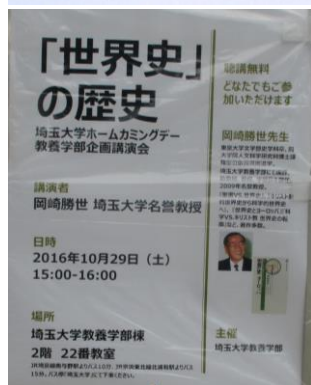


## 埼玉大学 ホームカミングデー

2016年10月29日埼玉大学のホームカミングデーが開催されました。午後1時～午後2時まで歓迎会で学長挨拶、山本利一教育

学部教授による研究紹介、学生表彰があった。その後、各学部のさまざまなイベントに向かうことになる。教養学部は、保護者会があり、男女1名ずつ現役学生が大学生活の様子を語り、先生から左図のような教養学部の進路状況などの説明があった。午後3時から岡崎勝世名

誉教授による「『世界史』の歴史」という講演がありました。午後4時から第2食堂で卒業生全員集まって埼玉大学同窓会会長の大西利樹の乾杯で交流会が始まった。飲食をしながら歓談し、その間に学生サークル活動の紹介のJAZZと邦楽演奏があった。



2016/10/29

**①講演会**  
やっとな実現!  
ノーベル物理学  
賞受賞者  
梶田隆章先生

**2017年度  
卒業生のための  
ホーム  
カミングデー**  
10月14日(土)

**②懇親会**  
他学部の卒業生  
とも交流できる  
貴重な機会なの  
で、ぜひ参加しよ  
う!





## 2017年度教養学部入学案内のデータより

## 卒業生の就職・進学先 (2011年度～2015年度)

卒業年度	2011	2012	2013	2014	2015
卒業生数 ( ) 女子内数	200 (133)	197 (139)	196 (133)	198 (120)	194 (118)
就職希望者数 ( ) 女子内数	171 (113)	166 (118)	170 (118)	177 (111)	173 (104)
就職者数 ( ) 女子内数	142 (93)	140 (101)	142 (98)	158 (99)	147 (90)

## 業種内訳

( ) 女子内数

	2011	2012	2013	2014	2015
農林水産	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
建設	4 (3)	1 (1)	4 (2)	4 (2)	2 (1)
製造	16 (8)	17 (12)	19 (13)	19 (16)	18 (9)
電気・ガス・エネルギー・水道	2 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	2 (2)
運輸・通信	19 (7)	25 (19)	15 (12)	33 (19)	27 (12)
飲食・卸売・小売	15 (11)	19 (12)	22 (16)	21 (13)	14 (13)
金融・保険	17 (15)	20 (12)	13 (8)	24 (19)	28 (22)
不動産	2 (2)	6 (4)	1 (1)	3 (2)	5 (4)
サービス	24 (19)	32 (25)	31 (22)	20 (12)	20 (13)
教育	13 (11)	5 (2)	7 (6)	11 (5)	7 (3)
公務	27 (14)	14 (13)	26 (16)	21 (10)	23 (10)
その他	2 (2)	1 (1)	4 (2)	2 (2)	1 (1)
大学院進学	11	14	14 (7)	6 (2)	15 (10)

## 主な就職先

2015年度

建設・製造	クシダ工業(株)、(株)ミライト・テクノロジー、(株)武蔵野、ローマイヤ(株)、(株)梅林堂、田中製菓(株)、片倉工業(株)、片倉工業(株)、(株)ディー・エム・エス、岩岡印刷工業(株)、(株)潤工社、(株)朝日ラバー、協友アグリ(株)、(株)アステラス製薬、コベルコ建機、三井精機工業(株)、(株)竹内製作所、(株)加藤製作所、東京航空計器、日本トールカンパニー
宿泊・飲食・卸売・小売	(株)Globridge、米国三越、(株)ドールコーヒー、(株)板通、(株)大和、(株)タカノ、新明電材(株)、(株)パーツワン、(株)フレッセイ、アイアコーポレーション、大学生協東京事業連合、ファーストリテイリング、クワイエット・デー、(株)ロコンド、(株)JINS、(株)パル、(株)東京玉子本舗
運輸	(株)三協、ANAテレマート、ANA関西空港、NAAリテイリング、全日本空輸(株)、日本郵便(株)
通信・マスコミ	(株)ワークスアプリケーションズ、トクノート(株)、(株)レジェンド・アプリケーションズ、バリュー・アーク・コンサルティング(株)、日本アイ・ピー・エム・サービス(株)、(株)Hayakawa、日販コンピュータテクノロジー(株)、(株)インテリジェントテクノロジー、(株)NTTデータSMS、AGS(株)、SMIセイ情報システム(株)、東日本電信電話(株)、(株)光通信、(株)テレビ信州、日本郵便(株)、(株)リクルート北関東マーケティング、LINE(株)、(株)カラフルカンパニー、(株)プラスディー、Salesforce.com、(株)インフォバーン
金融・保険	松本信用金庫、日本郵便(株)、りそなホールディングス、(株)ジャックス、(株)清水銀行、(株)秋田銀行、りそなホールディングス、(株)足利銀行、(株)北越銀行、七十七銀行、三菱UFJニコス(株)、(株)エムアイカード、りそなホールディングス、(株)常陽銀行、(株)八十二銀行、石巻信用金庫、(株)常陽銀行、(株)みずほ銀行、三井住友カード(株)、(株)日本郵便、三井住友銀行、八十二銀行、住友生命相互保険会社、野村証券(株)、第一生命保険、損保ジャパン日本興亜、三井生命保険(株)、日本生命相互会社
教育・学習支援業	栃木県高等学校、大妻嵐山高等学校、学校法人小山学園、独立行政法人国立長野工業高等専門学校、学究社、(株)アカデミー、(株)ティルwind
その他・サービス	(株)環境コンサルティング、(株)フラッグ、(株)メディサイエンスプランニング、(株)メディックス、博覧堂DYインターソリューションズ、(株)翻訳センター、Jフロンティア、クラブツーリズム(株)、(株)ベースオントップ、(株)サイバーエージェント、ロングランプランニング(株)、(株)麗人社、埼玉県農業組合連合会、ソニーミュージックグループ、JFEシステム、金日豊(株)、国民健康保険団体連合会、(株)藤本農科店、(株)スマートテック、(株)三菱地所リアルエステートサービス、(株)OPA、(株)長谷工エアベスト、スターツコーポレーション、(株)ミニミニ
公務	二セコ町役場、北茨城市役所、江戸川区役所、埼玉県庁、宇都宮市役所、品川区役所、練馬区役所、栃木県庁、埼玉県小中学校事務、栃木県小中学校事務、栃木県庁、銚子市役所、佐野市役所、郡山市役所、特別区、静岡県庁、佐野市役所、埼玉県小中学校事務、坂戸市役所、川越市役所、芳賀町役場、今治市役所、福島県庁

## 出身校の所在地別入学者数

国・地域	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
北海道	2	6	5	5	1
東北	35	38	36	42	35
関東 (うち埼玉)	88 (31)	79 (40)	73 (42)	79 (30)	99 (43)
中部・近畿	30	24	34	23	32
中国・四国	5	10	7	4	6
九州・沖縄	5	7	10	11	6
その他(外国・検定等)	7	12	5	12	11
合計	172	176	170	176	190

## 2016年度 入学者選抜実施状況

定員	日程	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	追加合格者数	入学者数
160	前期	125	443 ※21	420 ※15	167 ※4	0 ※0	150 ※4
	後期	35	157 ▲14 ○6	71 ▲13 ○5	35 ▲5 ○2	0 ▲0 ○0	29 ▲5 ○2

※留学生 ▲帰国子女 ○海外留学

## その他のデータ

教養学部卒業生累計数 (2016.3.31)	7 1 9 7 人
教養学部 2015 年度留学者数(半年以上)	3 2 人

## 埼玉大学基金

### へ、ご協力を！

平成25年に設立いたしました埼玉大学基金は、皆様からのご理解ご支援を賜り、その目的の一つである「埼玉大学インターナショナルレジデンス（国際学生寮）」の整備について、創立70周年を迎える平成31年10月の完成を目指して準備を進めている状況です。

さらに、埼玉大学基金内に新たに「埼玉大学修学サポート基金」を設立し、経済的な理由により修学に困難がある学生に対する支援を行うこととしました。

詳細はホームページをご覧ください。ぜひ幸いです。

同窓生の皆様からのご理解ご支援をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。

### インターネット検索

○埼玉大学

○埼玉大学基金

お問い合わせ先

「埼玉大学基金室（広報渉外室内）」

電話 048-858-9330

Eメール

s-ki@gr.saitama-u.ac.jp

## 埼玉大学基金

### へ、古本募金

埼玉大学古本募金は、古本（DVDも）を送っていただき、その査定額を埼玉大学基金に寄付する取り組み。5点以上は送料無料です。詳しくはインターネット検索「埼玉大学 古本募金」を見てください。または0120-29-7000に電話して埼玉大学に寄付したいと伝える。運営協賛会社は〒358-0053 入間市仏子916 嵯峨野株式会社  
電話 04-2931-3000

## 卒業記念

### パーティー

2016年度の卒業式が3月24日（金）の午前中、大宮駅西口のソニックシティで行われました。その後、午後3時から教養学部卒業記念パーティーが4年生の実行委員会主催で行われました。場所は、大宮駅南口の南銀座「ボンボンバザール」で立食パーティー形式でした。市橋秀夫学



部長挨拶の後、けやき会から研究教育支援費を贈呈された。伊藤博明先生の乾杯で歓談になり、学士の卒業証授与が行われ、途中、景品が当たるビンゴ大会を今回初めてあつて、記念撮影をして午後5時ごろ終了した。

## 教員の異動

高木英至先生↓退職  
小川敏栄先生↓退職  
梶島邦江先生↓退職  
永田雅啓先生↓退職  
仁科弘之先生↓退職  
伊藤博明先生↓専修大学

### いつでも間に合う

### ミニ同窓会への補助金

10名程（8名以上でも可）同窓生の集まりに、けやき会より1万円補助します。2016年度は文化人類学50周年と2期生の小松和彦氏の文化功労章受章を祝う会の2つの申請があります。もっと、同期



## けやき会役員募集

けやき会の役員は現役の方が多く、実務を行う人手が足りません。退職など時間に余裕がある方はぜひ役員に応募してください。

発行者

埼玉大学けやき会

（埼玉大学文学部文学科・人文科、教養学部、文化科学研究科 同窓会）

会長 榎木誠

編集 関根増男

埼玉大学けやき会事務局

〒358-8570

さいたま市桜区下大久保 255

埼玉大学教養学部内

メールアドレスは

info@keyakikai.net

埼玉大学同窓会事務局

dousou@mail.saitama-u.ac.jp

電話：048-858-9218

電話：048-858-9218

ミニ同窓会補助金申請	
会の名称	氏名
代表者	卒年
	郵便番号
	住所
	電話番号
実施日	メールアドレス
開催場所	
出席人数	
振込先	
会の様子や写真	

生や先生を囲む会とか企画して補助金を申請してください。